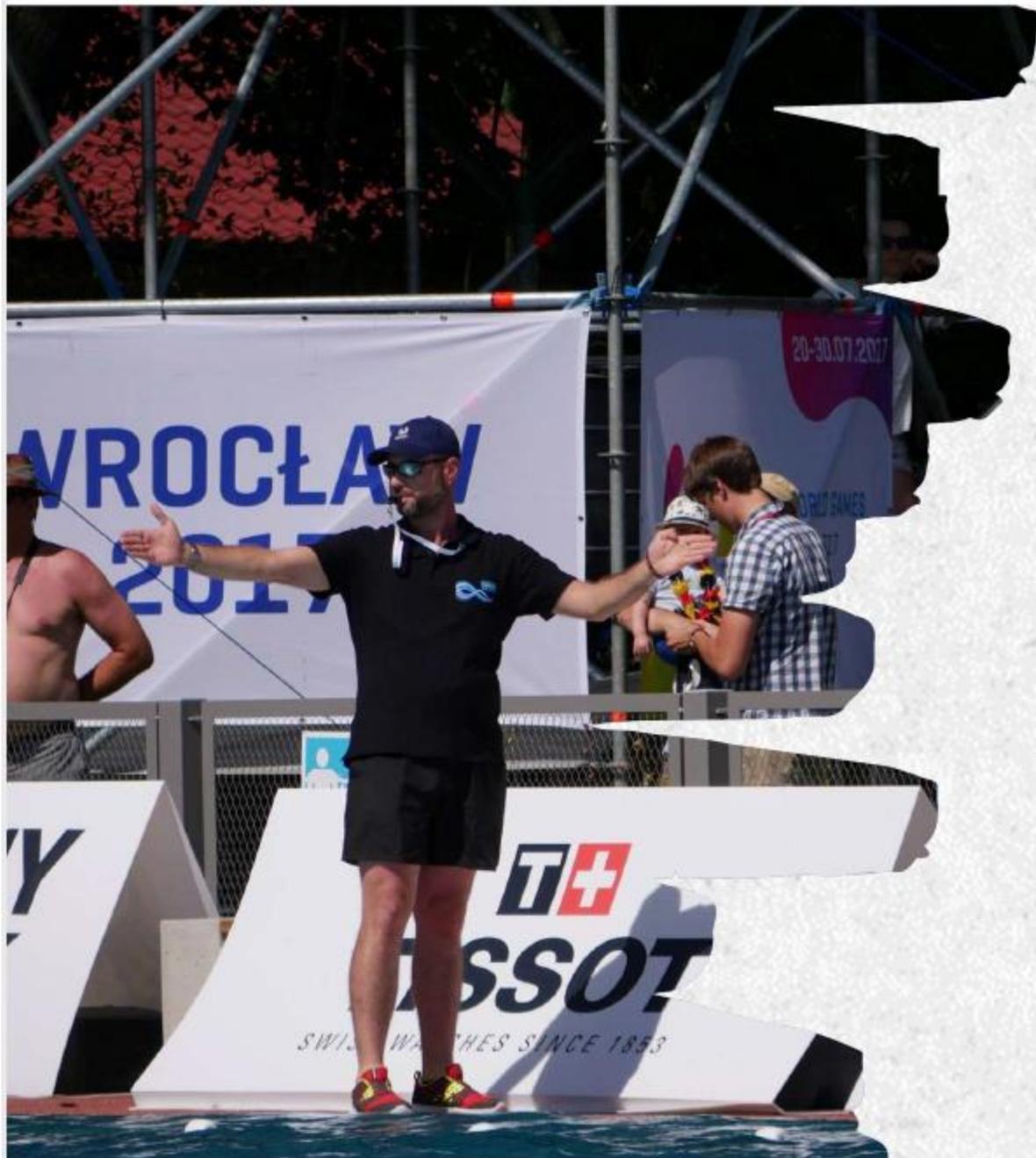




2022 ICF CANOE POLO RULE CLARIFICATIONS

WWW.CANOEICF.COM/RULES

2022年改正 解説



サーフワックス

2022年改正により、滑りやすい物質の塗布は、カヤックのみに限定されました。

第18条第5項

選手は、本来の表面の摩擦係数を変化させるような滑りやすい物質をカヤックに塗布してはならない。

第18条第6項は、「サーフワックス」の使用について明確化するために新規追加された規定です。パドルのシャフトへの塗布のみ認められることになりました。

第18条第6項

選手は、パドルのシャフト部分を除き、いかなる装備にもサーフワックスを塗布してはならない。





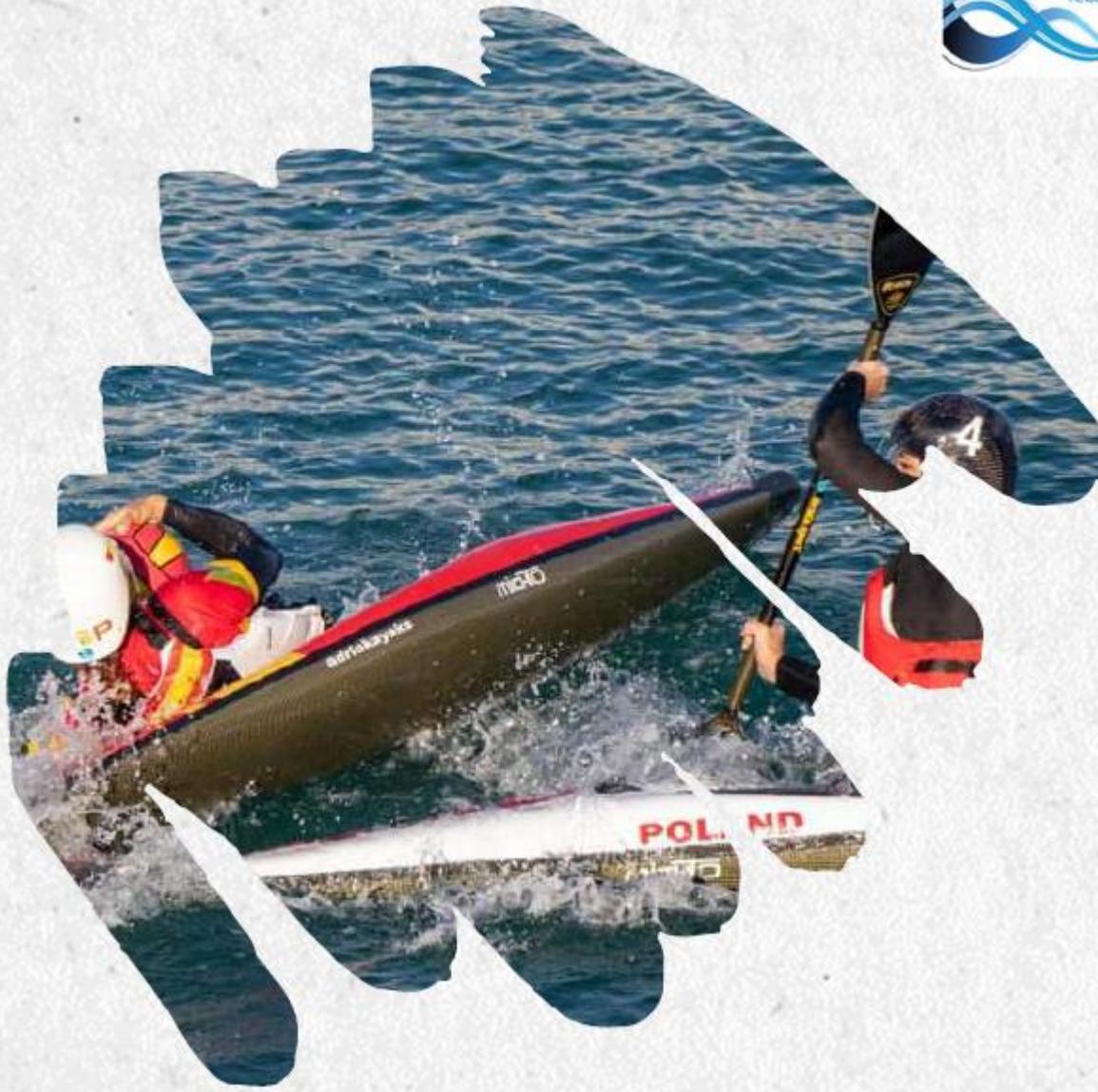
競技の開始

第68条第8項

各チームの選手1名だけがボール獲得を試みることができる。ボール獲得を試みる2名のうち1名が手でボールに触れるまでの間、その他の全ての選手は当該選手の身体から半径3m以内に侵入してはならない。

2022年改正のポイントは次の3点です。

- ① 各チームから選手1名のみがボール獲得を試みることができる。
- ② 上記2名の選手は、ボールを狙わずに危険な方法で意図的に相手選手にタックルしてはならない。
- ③ 上記2名の選手を除く 全ての選手は、当該選手の 身体から半径3メートル以内に入ってはならない。



競技の開始

2名の選手のうち一方が手でボールに触れるまで、他の選手がボールに対してプレイできません。

一方がパドルでボールを扱った場合、当該選手が手でボールに触れるか、パドルでパス又は弾き飛ばすまで、「ボール獲得を試みる行為」は終了しません。

ただし、上記2名の選手がボール獲得を試みた結果、ボールが3メートルを超えて跳ね跳んだ場合、「ボール獲得を試みる行為」は終了したものとみなされ、全ての選手がボールに対してプレイすることができます。

なお、ボール獲得のため、相手のカヤックの前に意図的に飛び込んでカヤックに衝突した場合、危険なカヤックタックルとはみなされません。

2名の選手のうち一方が明確にボールを獲得した場合、もう一方の選手は相手選手との危険な接触を回避するよう努めなければなりません。

また、一方が明確にボールを獲得したにも関わらずボールを獲得するために故意に相手のカヤック下に潜り込んだ場合、カードで制裁を受けることはありません。



シュート又はパスを試みる選手

第91条第5号

守備側の選手の片手又は両手が、シュート又はパスを試みる攻撃側の選手の腕又はボールに接触して、ボールを投げる動作に影響を及ぼす行為をすること（シュート又はパスを試みる選手が、守備側の選手の静止した状態の手又は腕に接触した場合は違反としない。）。

シュート又はパスを試みる選手の保護を明確にするために新規追加された規定です。

守備側の選手は、シュート又はパスを試みる選手に対して腕又は手を動かすことは禁止されていますが、腕又は手が静止した状態であればディフェンスすることができます。



シュート又はパスを試みる選手



(参考)

第87条第2項第5号

次に掲げる行為を違反となるハンド・タックルとする。

(略)

ボールを投げ、若しくはパスする選手のボールを扱う腕に対して、叩く又は引っ張る側面若しくは後方からのハンド・タックル

ホールディングの反則として前ページの規定が新規追加されましたが、類似するものとして上記のとおりハンド・タックルの反則が定められています。

ゴール・ペナルティ・ショット

2022年改正により全てのゴール・ペナルティ・ショットはキーパー有で行われ、シュートを撃つ選手及びキーパーとなる選手はどの選手でも良いこととなりました。

ゴール・ペナルティ・ショット時における他の選手の待機位置も明確化されました。

第104条第4項

その他選手及び装備は、6mラインの後方に位置しなければならない。交替選手又は退場中の選手のみがゴール・ラインの後方にすることができ、ゴール・ペナルティ・ショットが行われる前に6mエリア内に侵入した者がいる場合、得点されなかったときはゴール・ペナルティ・ショットが再度行われ、違反した選手に対してサンクション・カードを与える。

ゴール・ペナルティ・ショットにより得点が認められた場合、パワー・プレイは解除され、退場となった選手はコートに戻ることができます。

ただし、ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる反則を犯した選手に与えられたサンクション・カードが3枚目（レッド）であった場合、カードが与えられてから2分間が経過するまでは、当該選手又は別の選手がコートに戻ることはできません。



ゴール・ペナルティ・ショット

第95条 ゴール・ペナルティ・ショット

ゴール・ペナルティ・ショットは、次に掲げる反則に対する制裁として与えられるものとする（シグナル7及び16適用）。

- (1) 6mエリア内において発生し、かつ、シュートを試みる選手に対して行われる意図的な反則又は危険な反則
- (2) 6mエリア内において発生し、かつ、決定的な得点場面に繋がるパス又はポジションを得ることを試みる選手に対して行われる意図的な反則又は危険な反則
- (3) 6mエリア内において発生し、かつ、フリー・ショットを試みる選手に対して行われる意図的な反則又は危険な反則
- (4) 6mエリア外において発生し、かつ、ゴール・キーパーがいない状況で、決定的な得点場面に繋がるシュートを試みる選手に対して行われる意図的な反則又は危険な反則
- (5) 6mエリア外において発生し、かつ、ゴール・キーパーがいない状況で、決定的な得点場面に繋がるパス又はポジションを得ることを試みる選手に対して行われる意図的な反則又は危険な反則

(用語の定義)

- ・ 意図的な反則 違反となるプレーを避けるための努力がなされなかった反則
- ・ 危険な反則 相手選手の腕、頭又は身体に激しい接触があり、負傷させる可能性のある反則
- ・ 決定的な得点場面 プレーが続行した場合、非常に高い確率で得点が認められていたと審判が判断する場面

ゴール・ペナルティ・シュット

項目	現行	改正
カードの種類	ゴール・ペナルティ・シュットの原因となる反則を犯した選手には <u>イエロー・カード</u> が与えられる。	ゴール・ペナルティ・シュットの原因となる反則を犯した選手には <u>サンクション・カード</u> が与えられる。
カードの効力	ゴール・ペナルティ・シュットの結果、 <u>得点されても2分間経過するまで再入場できない。</u>	ゴール・ペナルティ・シュットの結果、 <u>得点されると再入場できる。</u>
ゴール・キーパーの有無	<u>反則時にゴール・キーパー無 → ゴール・キーパー無で実施。</u> <u>反則時にゴール・キーパー有 → ゴール・キーパー有で実施。</u>	<u>常にゴール・キーパー有で実施。</u>
シュートを撃つ選手	<u>ゴール・ペナルティ・シュットの原因となる反則を受けた選手</u>	<u>攻撃側の任意の選手</u>
ゴール・キーパーとなる選手	守備側の任意の選手	



サンクション・カード・システムの導入

カード・システムが改正となり、「サンクション・カード・システム」が導入されました。

サンクション・カードとは次の2種類があり、個人に対してのみ与えられ、チーム全体に対する警告としては用いられません。

- ① グリーン、イエロー、レッド・カード
- ② イジェクション・レッド・カード

選手に与えられる上記①のサンクション・カードは、1枚目がグリーン、2枚目がイエロー、3枚目がレッドとなります。

1枚目のグリーン、2枚目のイエローが選手に与えられた場合、最大で2分間退場（相手チームが得点した場合は再入場可）を意味します。（第99条「パワー・プレイ」適用）

3枚目のレッドが選手に与えられた場合、2分間が完全に経過するまでは当該選手又は他の選手はコートに戻ることができません。

第94条第1項

審判は、違反となる行為の程度及び頻度に応じて、次項に規定する制裁を組み合わせて、違反した者に科すことができる。

第98条第4項

審判は、選手が犯した意図的な反則が試合の流れに大きな影響を与えると判断した場合、2枚目（イエロー）、3枚目（レッド）等の段階を踏むことなく、直ちに上位レベルのカードを当該選手に与えることができる。

サンクション・カード・システムの導入

第101条

1 次に掲げる者に対する制裁として、適切なカードを与えるものとする（シグナル17及び適切なカード適用）。

- (1) 意図的な反則又は危険な反則を繰り返した選手
- (2) ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる意図的な反則又は危険な反則を犯した選手

意図的な反則（違反となる行為を避けようとしていない）が繰り返された場合、危険な反則（相手選手の腕、頭、身体に重大な接触があり、怪我の原因となる可能性がある）が行われた場合にサンクション・カードが適用されます。

違反となる行為を避けようとしている意思が認められる「軽微な反則（相手選手の手が届かない範囲にパドルを留めようとしている、競技開始時のボール取りで相手選手にカヤックが衝突しないように試みる等）」のような、明らかに偶発的に発生した反則にはサンクション・カードは適用されず、「重大な反則」として認められる危険な行為に対してサンクション・カードが適用されます。

サンクション・カード・システムの導入に伴い、リーグ戦において勝ち点と同数のチームが複数ある場合、①得失点差、②総得点、③直接対決の結果、④フェア・プレイ、⑤再試合の順で順位が決定されますが、④フェア・プレイの考え方が次のとおり変更となりました。

現 行	改 正
与えられたカードの <u>数</u> がより少ないチーム（ <u>レッド・カード</u> 10点、 <u>イエロー・カード</u> 5点、 <u>グリーン・カード</u> は除く）	与えられたカードの <u>点数</u> がより少ないチーム（ <u>インジェクション・レッド・カード</u> 25点/枚、 <u>グリーン</u> 、 <u>イエロー</u> 、 <u>レッド・カード</u> 各 5点/枚）

イジェクション・レッド・カード

第98条第3項第1号

イジェクション・レッド・カード 与えられた選手は、試合の残り時間は全て退場となり、当該試合の次の1試合にも出場することができない。

イジェクション・レッド・カードが適用される場合、3枚目のカード（レッド）と区別するために、左側の写真のようなシグナルが用いられます。

片手でレッド・カードを持ちながら、両手を握って腕を組み、「イジェクション・レッド・カード」と口頭で伝えます。

イジェクション・レッド・カードは、非常に重大な反則が試合に行われた場合に認められ、選手は試合の残り時間全てが退場となり交代することはできません。



カード・システムの現行・改正比較表

項目	現行	改正
種類と制裁内容	<ul style="list-style-type: none"> グリーン：<u>警告</u> イエロー：最大2分間退場 レッド：<u>残り時間全て退場+次の1試合退場</u> 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン：<u>最大2分間退場</u> イエロー：最大2分間退場 レッド：<u>2分間退場</u> ディテクション・レッド：<u>残り時間全て退場+次の1試合退場</u>
枚数等	<p><u>1試合で与えられるカードは次のとおり。</u></p> <p>選手：1枚目グリーン・カード、2枚目イエロー・カード（イエロー・カード2枚→<u>レッド・カード</u>）</p> <p>チーム：<u>グリーン・カードは3枚まで（4枚目からは自動的にイエロー・カード）</u></p> <p>※大会中にイエロー・カード3枚を与えられた選手は、自動的に次の1試合は<u>出場停止。</u></p> <p>※試合時間が残り1分となった場合に適用されるカードは自動的にイエロー・カード。</p>	<p><u>カードの対象は個人のみで、1試合につき選手個人に与えられるカードは原則として3枚まで。</u></p> <p>選手：1枚目グリーン・カード、2枚目イエロー・カード、<u>3枚目レッド・カード</u></p> <p>※試合に大きな影響を与える反則には、直ちに上位レベルのカードを選手に与えることが可能。</p>
パラープレイ	<ul style="list-style-type: none"> <u>イエロー・カード</u>が与えられると最大2分間退場となるが、相手チームが得点すると再入場できる。 <u>ゴール・ペナルティ・ショット</u>が与えられると2分間経過しないと再入場できない。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>グリーン、イエロー・カード</u>が与えられると最大2分間退場となるが、相手チームが得点すると再入場できる。 <u>レッド・カード</u>が与えられると2分間経過しないと再入場できない。
ディテクション・レッド・カードの対象	—	<ul style="list-style-type: none"> <u>選手に対する個人攻撃を行う者</u> <u>3枚目のカード（レッド）が与えられた結果、争いが生じたとき</u> <u>選手を現に負傷させた、又は負傷の危険性があるような「意図的な反則」、「危険な反則」を繰り返し、試合に大きな影響を与える判断される者</u>
グリーン、イエロー、レッド・カードの対象	<ul style="list-style-type: none"> 意図的な反則又は危険な反則を選手が繰り返し犯した選手 ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる意図的な反則又は危険な反則を犯した選手 審判がアドバンテージを適用している間に、意図的な反則又は危険な反則を繰り返し犯した選手 フリー・ショット、コーナー・スロー、サイド・スロー、ゴール・スローを試みる相手選手のキックに対して意図的に接触した選手 審判の判定に対して、繰り返し異議を唱える者 相手チーム、競技役員に対して下品な言葉又は暴言を吐く者 審判、競技役員、相手チームへの不必要で不適當な発言、その他スポーツ精神に反する行為を行う者 	
<u>現行から変更なし</u>		

審判に対する質疑

第102条

- 1 監督又はチームのキャプテンは、次に掲げるときにおいてのみ、審判の判定に対する質疑を行うことができる。
 - (1) ハーフ・タイム又は試合が終了したとき
 - (2) コート外にボール・アウトしたとき
- 2 ボールがイン・プレーのとき又は審判が試合に関する職務を果たしているときは、審判に話しかけることは許されない。監督及びチームのキャプテンを除くその他のチーム・スタッフは審判に話しかけてはならない。

この規定の新設により、キャプテン又は監督は審判に対して質疑することが認められていますが、「パドルが近い」「6番がオブストラクションしている」等、質疑は端的に行われなければなりません。

質疑によって判定は変更、無効とはならず、審判は判定の理由を示すのみとなります。

この規定が新設されたことにより、キャプテンが腕章を身に着けることがこれまで以上に重要となります。（第21条第4項）

第102条

- 4 本条の規定に関して違反があった場合は、違反したチームの監督及びチーム・スタッフ全員に対して1枚のグリーン・カードが与えられなければならない（シグナル17及びグリーン・カード適用）。
- 5 前項のグリーン・カードは、違反が発生したとき又は試合が次に中断したときに与えられる。
- 6 監督及びチーム・スタッフに与えられたグリーン・カードは警告を意味し、退場を求めない。
- 7 グリーン・カードによる警告を受けた監督又はチーム・スタッフが、コーチ・エリアを離れた場合、イジェクション・レッド・カードが与えられる（シグナル17及びレッド・カード適用）。



新ルールQ & A

Q1 ゴール・ペナルティ・ショットで得点が認められた場合、パワー・プレイは解除されますか？

→ そのとおりです。旧ルールが改正され、ゴール・ペナルティ・ショットで得点した場合はパワープレイは解除され、サンクション・カードが与えられた選手はコートに戻ることができます。ただし、与えられたカードが3枚目（レッド）であった場合、その選手又は他の選手は2分間が経過するまでコートには戻ることができません。

Q2 1枚目のサンクション・カード（グリーン）が与えられると、2分間退場でパワー・プレイとなるのでしょうか？

→ そのとおりです。1枚目（グリーン）、2枚目（イエロー）のサンクション・カードが適用された場合、それぞれ第99条に規定されるパワー・プレイとなります。

Q3 サンクション・カードが認められるような意図的又は危険な反則が繰り返されたが、審判がアドバンテージを適用し、得点が認められた場合、パワー・プレイは終了となりますか？

→ いいえ。第101条第1項第3号では「審判がアドバンテージを適用している間に、意図的な反則又は危険な反則を繰り返し犯した選手（イジェクション・レッド・カードが与えられる場合を除く。この場合におけるサンクション・カードの効力は、反則が発生したときからではなく、選手にサンクション・カードが与えられたときから生じる。）」と規定されています。したがって、上記のような場合は得点後にサンクション・カードが与えられることとなります。

Q4 3枚目（レッド）が選手に与えられた場合、1枚目（グリーン）と2枚目（イエロー）があたえられた場合と同様のパワー・プレイとなりますか？

→ いいえ。3枚目のサンクション・カードが与えられた選手は2分間退場となり、当該選手及び同じチームの他の選手は2分間経過するまで、コートに戻ることはできません。

Q5 第98条第3項第2号では、3枚目のサンクション・カードが選手に与えられると、2分間経過するまでコートに戻ることができないと規定されています。「ノーマル・レッド」の場合は2分後にカードを与えられた選手を含めた5人でプレイすることができるが、「イジェクション・レッド」の場合は試合の残り時間全てを4人でプレイすることとなるという理解で合っていますか？

→ そのとおりです。3枚目の「ノーマル・レッド」を与えられた場合は退場時間の2分間経過後に再入場することができますが、「イジェクション・レッド」を与えられた場合は第100条第4項に基づき、当該試合の残り時間全て退場となるとともに、大会期間中の次の1試合にも出場することができません。

新ルールQ & A

Q6 ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる反則を犯した選手に与えられるサンクション・カードが、その選手にとっては1枚目である場合、従来のルールと同じく1枚目からイエローとなりますか？

→ いいえ。ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる反則であるか否かに関わらず、サンクション・カードの色の推移は、1枚目グリーン、2枚目イエロー、3枚目レッドとなります。ただし、反則が意図的又は危険なもの（又はその両方）であり、競技に大きな影響を与える場合、審判は上記段階を経ることなく、2枚目又は3枚目の色のカードを与えることができます。

Q7 第101条第1項では「『意図的な反則又は危険な反則を繰り返し犯した選手』に対する制裁として、適切なカードを与えるものとする」と規定しています。例えば、「意図的なパドルの反則」を犯した選手が、その後に「意図的なカヤック・タックル」の反則を犯した場合、意図的な2種類の行為からなる反則を行っていることとなりますが、意図的な反則を「繰り返している」と判断し、サンクション・カードの対象となるのでしょうか。あるいは、「意図的なパドルの反則」を2回行った場合、意図的な反則を「繰り返している」と判断するのが正しいのでしょうか？

→ 異なる種類の行為であっても意図的な反則が2回以上行われていれば「繰り返している」と判断し、サンクション・カードを選手に与えることができます。（パドル+オブストラクション、カヤック・タックル+ホールディング等）

Q8 意図的かつ危険な反則を犯した選手に対しては、どのような判定となりますか？

→ A 相手選手の腕、頭、身体へ接触し、負傷させる可能性があり、明確に「意図的かつ危険な反則」であると判断される場合には、競技に重大な影響を及ぼすと判断し、当該選手に対してイジェクション・レッドカードを与えることとされるべきです。その他、第98条第4項に基づき、反則の重大性を鑑みて2枚目（イエロー）又は3枚目（レッド）のカードに直接移行することができます。

Q9 自分の手を用いて、相手選手の手からボールを奪うことは可能ですか？

→ ボール獲得を試みる行為が、第91条に規定される違反となるホールディング（特に第91条第1項第5号に規定される危険な行為）とはならず、相手選手がパス又はシュートを試みていない場合に限り、可能です。